

ヨコハマ人・まち

第18号

まちへ人がまちをつくる

発行：横浜市 都市整備局 地域事業部 地域整備支援課 TEL045-671-2696 FAX045-663-8641
Email: tb-chiikishien@city.yokohama.jp

【ヨコハマ人・まち 目次】

- ◆地域まちづくり紙面講座 その3「防犯と地域まちづくり」
- ◆イベント情報

地域まちづくり
紙面講座
【その3】

防犯と地域まちづくり

防犯対策の 施策の現状と 地域まちづくり

横浜市は平成16年に、横浜市防犯力強化宣言の中で「自主防犯力の強化」を掲げ、平成17年には「よこはま安全・安心プラン～地域防犯力の向上をめざして」を策定しました。小さな犯罪も見逃さず、町のメンテナンスを怠らないことや町の美化が防犯につながります。

「安全・安心プラン」では、具体的な取組として「一人ひとりが地域に目をむけ、自ら行動する取組」「地域における様々な人たちがつながり、連携を強化する取組」「防犯を含む様々な地域活動の持続的な取組」「個々の建物や公共空間の環境改善に関する取組」を掲げています。

地域防犯拠点を設置支援していますが、防犯パトロールの拠点としてだけでなく、地域の集会などに気軽に使っていただきたいと考えています。

防犯活動ではなくても防犯につながる活動はたくさんあります。まちの美化運動や地域行事への参加なども防犯活動として有効です。大事なのは活動を継続していくことです。地域コミュニティづくりを地域の人たちが担い、犯罪に強い快適なまちをつかっていくことが大切です。防犯灯、安全灯、公園の植栽といった環境改善も必要でしょう。

地域の自治会・町内会、NPOなどの活動に区や市が支援したいと思います。行政が行うこととしては、広報や防犯情報の提供、地域の連携を強化するための場所づくり、各区役所を中心とした公用車によるパトロールなどです。こうした行動の積み重ねが犯罪に強いまちづくりにつながると思います。





区における 防犯まちづくりの 取り組み

鶴見区地域振興課
宮口郁子係長

鶴見区では、鶴見区防犯会議を平成16年に立ち上げて、町内会などの団体に参加してもらっています。平成16年と17年を比べると、犯罪の発生件数は39.6%減少しました。全県下で減少率が最も高くなっています。

また平成16年度は、区民会議では防犯を年間テーマとして取り上げ、区商店街連合会では、のぼり旗を掲げて、防犯のアピールをはじめました。

平成17年度の鶴見区防犯会議として行ったことは、1万人の防犯パトロールです。区はたすきや拍子木などのパトロールグッズを提供しました。また、防犯マップをつくりたいという21箇所の地域にはマップをつくってもらいました。

鶴見区の防災拠点に自治会、町内会が手を挙げ13か所の町内会館などで実施しました。ちょうちんを掲げてもらい、子どもたちが何かあればかけこめるような地域の番屋になっていければと考えています。

地域というのは防犯というテーマ以外にもいろいろなことをやっています。防犯拠点を開いて、子どもたちも防犯に関係なく寄ってきて話をするような交流の場も大事です。その他にも、鶴見区の消費生活推進員は、自治会・町内会、老人会と連携して、振り込め詐欺防止のために、カードをつくったり、寸劇の実演を行っています。このように地域で連携して防犯を進めています。

今後は、PTAからの提案で始まっている子ども110番の家の全区展開を図るなど、子どもの安全に力を入れていきたいと考えています。



以前は、防犯は警察や防犯協会の仕事だという意識がありましたが、**地域にとって防犯はいろんな活動の中の一部であり、地域が連携することが必要です。**



防犯や防災が地域コミュニティ再生への重要な契機となるのではないかと思います。





防犯まちづくりの 取り組み実践

鶴見区「平安セキュリティネットワーク」
代表 河西英彦氏

平安町は鶴見区でも
崎寄りも一番端の地区
で、8429人が住んで
います。

町内会が行う防犯活動としては、毎週の定期パトロール、年末特別警戒パトロール、防犯マップの作成などがあります。町内会とは別に、「平安セキュリティネットワーク」というボランティア団体をつくり、地域のパトロールや、学校と合同の不審者進入避難訓練や下校時声かけパトロールなどを行っています。

防災活動では、町内会は、年2回の防災訓練、備蓄品の充実、家庭防災員活動などを行っています。防災活動でも「鶴見区災害ボランティアネットワーク」というボランティア団体があり、災害時に外部からのボランティアをコーディネートするコーディネーターの養成や災害弱者の救援マニュアルづくりなどを行っています。

町内会は町会費をもらった人へのサービスですが、ボランティア団体は地域を越えて活動することもあります。また、町内会の役員は各班から選ばれてくる人たちですが、いろいろと役割もあり、あれもこれもはできません。そこで、自ら手を上げてくれる人たちで任意のボランティア団体（平安町福祉賛助会）をつくり活動しています。

町内会で行った防犯マップづくりは、以前にもつくったことがありましたが、今回、もう一回まちを見直そうと、小学生にも参加してもらいました。障害者団体に頼んで、災害のときに支援が必要な人に申告してもらうなどして、障害者や高齢者のマップもつくっています。そのマップは、当該区の民生委員と隣の区の民生委員がもちあうようになっています。また、外部には公表はしていませんが、老朽化した木造住宅もマップに落としました。

学校での不審者進入避難訓練は、子どもたちは体育館に避難します。町内会では、電話が入ったら、速やかに門に駆けつけて、子どもたちが帰宅する際、各町の町内会の会館まで送り届け、あとは各町内会にお願いすることにしています。

下校時の声かけパトロールでは、月曜日～金曜日まで毎日、子どもたちに声をかけて見守っているということを心に刻んでほしいと考えて行っています。

こうした活動を行うことで、地域の連携や隣同士の助け合いができてきます。行政が考えるバリアフリーは障害者用トイレの設置や段差の解消ですが、心のバリアフリーが大事です。そのために、手話教室なども行っています。実際に手話をやってみることで、障害者がどんな困難な状況にあるのか理解しようとしています。

その他、平安町には、4000人が参加する2日間のお祭りや、小学校のグラウンドでのイベント、資源回収や清掃活動、美化活動としての花壇づくりなど、様々な活動があります。リーダー役は町内会ですが、行政や社会福祉協議会、ボランティアといっしょになって活動しています。協働がキーワードです。

町内会とボランティアは、防犯だけでなく、福祉や子育てなど様々な面で関わっています。町内会館は、つくったときからバリアフリーで、高齢者福祉や子育てなどのボランティアに開放しています。地区内に公設の施設がないこともあり、会館をいかに利用しやすくするかを考えてきたことで、多くのボランティアが町内会館を使うようになっています。

配食サービスでは、町内会でボランティアを募り、今は30人程度が活動しています。延べボランティア数は150人を数えいろいろな活動をしています。町内会では、回覧や掲示板で、こんなことやっているよと知らせることが大事です。また町内会で、できないことでも、ボランティア団体ならできることが沢山あります。

防犯とまちづくり

横浜プランナーズネットワーク
谷口和豊氏

防犯というのは、まちづくりの全体の中の一部であるとともに、防犯からいろいろなところにつながっていきます。

平安町の防犯の取り組みには、多様な視点が含まれており、町内会の役員だけでなく様々な人が関わっています。町内会組織とボランティア組織がうまく連携している事例でしょう。また、要救助者リストをつくりたいとか、危険な住宅について調べたいと考えている地域は多いと思いますが、平安町にはすでにあるというのはすごいことです。

平安町から学ぶ防犯のまちづくりの工夫としては、市民の関心が高いタイムリーな課題に取り組み住民のニーズに応じていくこと、いろいろなことを単発的にやるのではなく継続的なコミュニケーションをつくっていること、義務的な町内会活動と自発的なボランティア活動を両輪にしていることなどでしょう。

地域にはいろいろな問題が複雑にからまっています。防犯という問題を狭くとらえるのではなく、防犯と直接関係のない問題も広くとらえることが大事です。住みやすさを競い、住みやすさを求めて人が集まってくるようにすることを町の目標にしてはどうでしょうか。

行政の施策は、自発的、主体的なまちづくりを支援していくのがトレンドとなっています。アイデアを競うことも必要となっています。ただ、防犯や防災は、持続的な取り組みが必要ですが、行政には持続的な支援は難しく、それが課題となっていると言えます。

●この春に行なわれた局再編により所属が変更になっている執筆者もいらつやいますが、執筆依頼時の所属のままとさせていただきます。



イベント情報

【夏！市民活動体験塾2006】

ボランティア活動に参加してみたい！市民活動団体ってどんな人たちが運営されているの？と思っている方に市民活動を実際に体験していただきます。

- 日時：事前研修会：7月10日(月)18:00~20:00、7月11日(火)19:00~21:00のいずれか
お見合い会：7月16日(日)10:00~12:30
体験期間：7月19日~10月19日の間で、5~10日程度
事後研修会：10月20日(金)18:30~20:30

- 場所：横浜市市民活動支援センター 他
- 対象：18歳以上(高校生を除く)~30代まで
- 定員：80人
- 費用：無料。*ボランティア保険未加入の方は保険代600円
- 申込み締切：7月1日(土)必着。

所定の用紙に記入のうえ、FAXまたは郵送で下記へ。ホームページからも申込できます。

- 申込み・問合せ：横浜市市民活動支援センター
〒231-0062 横浜市中区桜木町1-1-56 みなとみらい21クリーンセンター4・5F

TEL.045(223)2666 / FAX.045(223)2888

- 主催：横浜市市民活動支援センター 財団法人横浜市青少年育成協会

■詳細：
横浜市市民活動支援センターのページ
<http://www.npo-c-city-yokohama.jp/jigyou/natsu/index.html>

【水ドクターと学ぶ地域の水】 (藤が丘地区センター自主事業)

<地域の名人シリーズ>

- ・水はどう循環し、どこで汚染される？
- ・水道水と天然水と純水はどう違う？
- ・軟水と硬水の利き水体験をしよう！

- 日時：平成18年7月22日(土)9:30~11:30

- 会場：藤が丘地区センター工芸室
青葉区藤が丘1-14-95

<http://www.city.yokohama.jp/me/aoba/chikucenter/center/index.html>

- 講師：横浜市立鶴見工業高等学校講師・工学博士 磯貝 純
- 募集人員：30名(先着順)
- 対象：小学生高学年とその家族(親子参加 大歓迎)
- 参加費：300円(家族参加も同じ)
- 申込・問合せ：TEL045(972)7021
- 申込締切：平成18年7月15日(土)
- 主催：藤が丘地区センター・3-WA(さんわ)クラブ地域・ひと・環境を考える会
- 保育の有無：なし
- 駐車場がありませんので、車でのご来館はご遠慮ください。

【並木コミュニティカレッジ】

(市民講座)「未来の並木を考える」幸浦に出現した巨大風力発電の謎

- 講師：大崎邦夫
- 日時：7月23日(日)14:00~16:00
- 場所：並木コミュニティハウス研修室
- 受講料：500円
- 定員：80人(申込先着順)
- 申込方法：ハガキ又はFAXで下記申込先まで
- 申込先：NPO法人らしく並木
〒236-0011
金沢区長浜106-8金沢スポーツセンター内 オフィスカなざわ
TEL045(791)7690/FAX045(791)7691



- ★「ヨコハマ人・まち」への情報提供を募集します。
 - ・まちづくりに関わるイベントや参加者募集などPRしたいこと
 - ・地域で行っているまちづくりの取り組み
 - …情報提供はこちらへ

横浜市 都市整備局 地域事業部 地域整備支援課
Tel:045-671-2696 Fax:045-663-8641
Email:tb-chiikimachi@city.yokohama.jp

- ★「ヨコハマ人・まち」は地域まちづくりに関心のある方への転送、メルマガ参加のお誘い大歓迎です。

メールマガジンの配信申し込みは、下記のアドレスからお願いします。

<http://ml.city.yokohama.jp/mailman/listinfo/hi tomachi>



インドネシアのスマトラ沖で発生した地震により、壊滅的な津波被害を受けたバンダアチエ市から、先日、職員をお迎えする機会がありました。

復興計画は、土地利用、上下水道、道路交通など各方面に渡り、スローテンポながら進んでいけるものの、今なお、住むところもなく、路上生活をせざるを得ない市民がたくさんいます。市が緑化促進・干ばつ抑制のために植林した海岸から約2Kmのマングローブの緑地帯も被災者の生活場所となっていて、市民とねばり強い対話を進めているということでした。

まちづくりのテーマはさまざまです。「災害に強いまちづくり」「環境に優しいまちづくり」「安全・安心まちづくり」etc…。どんなテーマであれ、まちづくりを進める最も大切な要素は、市民と市との対話とお互いの理解であり、それは世界共通の裏テーマともいえることを改めて実感しました。

(地域整備支援課 坂本志穂美)